

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	乗用車販売店（従業員）	・最近、公務員などからの新車受注が多くなっているが、今後、ガソリン価格が安定すれば、公務員以外の人からの受注にも期待したい。
		乗用車販売店（従業員）	・3月の決算期に向け、利益確保のため、販売量増加の目標を立てている。毎年、この時期の客は積極的に動いており、販売促進効果もあり、3月までの販売量は増加する。
		観光型旅館（経営者）	・景気が若干良くなってきたことで、物の消費が少しずつ上向いている。時間とお金に余裕があれば、旅行を希望する人が多いため、今後は、国内旅行が増加する。
		設計事務所（所長）	・民間の業務施設の計画が増えてきた。
	変わらない	商店街（代表者）	・例年の歳末売出しに期待していたが、売上の増加にはつながっていない。特別な企画を行っても効果がでない。
		百貨店（総務担当）	・高額商品が売れ出すなどの明るさもあるが、絶対数が少ない。高額所得者と低額所得者の二極化が進んでおり、全般的な景気の回復までには時間がかかる。
		百貨店（営業担当）	・紳士用品は、購入の選別基準が、価格志向から品質志向への変化がみられる。ブランド商品は、一部を除き前年を維持している。高額商品の動きはみられるが、月により波がある。
		スーパー（財務担当）	・年末商戦は順調に推移しており、このところの寒波の到来で、鍋物商材がよく売れている。また、野菜の価格が上がっているため、今後は、売上が期待できる。
		コンビニ（店長）	・ライバル店の増加により、競争が激化しており、前年の売上を維持するのが難しくなっている状況である。客の購買意欲や単価が上昇しているなどの動きは、今のところみられない。
		衣料品専門店（経営者）	・客の話題には冬のボーナスの増加や、株価高などの明るい材料が多く、消費の回復に結び付くことを期待している。しかし、現実には手ごたえが感じられない。しばらくは一進一退の状態が続く。
		家電量販店（営業担当）	・販売の主力商品が少なくなってくる時期に入るので、現状維持の状態がまだ続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・1～3月にかけては、年間で最大の需要時期であるが、9月以降の動きをみている限り、良くならない。
		乗用車販売店（管理担当）	・一部企業では、業績は向上しているようであるが、客の話から、景気が回復しているという話は、あまり耳にしたことがない。個人の懐具合は、まだ豊かになっていない。
		一般レストラン（経営者）	・町の人口は、中心街より遠くへ移動している。売りたい商品をお金を稼ぐ機会がますます減少し、人の動く要因があるとき以外は、閑散とした状態である。
		都市型ホテル（経営者）	・個人消費がやや増加しているが、これは特定の商品が売れていると考えている。予約状況は、昨年とほとんど変わらないが、昨年より若干悪い状況であり、景気自体が良くなったというのは実感できない。
		通信会社（企画担当）	・1～2月にかけては、消費意欲の低下が懸念されるが、3月は卒業・入学のシーズンとなるため、例年並みの状況に回復する。
		ゴルフ場（従業員）	・季節的な要因が考えられるが、予約状況や客単価はあまり変わらず、全体的に今月の状況とあまり変わりはない。
		住宅販売会社（従業員）	・価格帯の高い建て替えの客が動き始めているが、金利上昇の動きがあるため、全体的には商談数、契約数は変わらない。
		その他住宅〔不動産〕（経営者）	・土地の値下がりや、買い需要の低迷は続いており、しばらく景気は良くならない。
		やや悪くなる	一般小売店〔菓子〕（販売担当）
旅行代理店（従業員）	・2月、3月は旅行の時期としては恵まれておらず、例年売上を落としている。現時点で、大きな材料も無く、例年通り売上は減少する。ただし、大学入試・入学などで人の動きがあり、航空券は比較的売れる。		
悪くなる	スーパー（店長）	・競合店の出店が、今後も続き、年明けには競合店が増加するため、結果として価格競争になり、デフレ傾向が更に強まる。	

企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（従業員）	・3か月先には、新商品が発売されるため、売上げの増加が期待できる。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・新商品に関しての取引先からの引き合いが、増加傾向にある。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・今後、年度末に向かってクレーンの稼働率は更に高くなり、受注残高も徐々に積み上がっていく。
		輸送業（役員）	・荷動きは、月末集中型が続いているが、最近ではアルコール類、食品関係などが若干前年よりも荷動きが良くなっている。しばらくこの傾向が続き、景気の回復の良い兆しになる。
		不動産業（経営者）	・最近では、住宅用用地の需要に加え、事務所・店舗などの事業用用地に関する不動産の申込が増加している。今後は、景気は回復傾向にあり、設備投資意欲が増加する。
		公認会計士	・話す客のうちの3割程度は、設備投資を前向きに検討し始めている。出店計画・自社ビル計画などの相談が増加しているため、景気はやや上向きに推移する。
	変わらない	一般機械器具製造業（経理担当）	・関西地区の排ガス規制による買替需要のため、来年6月までは動く。中国地区・九州地区は、まだ若干の猶予期間がある。また、輸出関係の案件もあり、当面は堅調に推移する。
		建設業（総務担当）	・民間の建築工事では、設備投資の見積依頼の件数がやや増えてきているが、競争が激しく、適正な価格での落札ができない状態が当面続く。
		輸送業（支店長）	・荷動きは上向き傾向であるが、燃料の軽油価格が高止まりしており、その分を運賃料金に転嫁できないため、経営環境の厳しさは変わらない。
	金融業（融資担当）	・高知県の主要産業である建設・土木関連の企業が、公共工事の減少から更に悪化する。	
	広告代理店（経営者）	・地元の得意先の多くは、県外大手との厳しい競争による売上の減少で、広告出稿も減少している。一部の得意先で具体的な新規出店計画・店舗リニューアル計画があり、結果としては変わらない。	
	やや悪くなる	化学工業（営業所長）	・今後も原油価格の高騰や、中国製の需要増などにより、国内での石油化学製品の厳しい状況は続く。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（支店長）	・企業の積極的な採用活動はこのまま続くため、求職者・派遣登録は増加する。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・4月に向けて、中途での即戦力採用は、募集広告としては1月、2月がピークになるため、少し良くなる。また、企業規模・教育体制・トップの指針などで、中途採用を希望する企業は、業種を問わず増加している。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・今後、正社員の雇用は、新卒採用が主となるが、臨時雇用やパート、アルバイトの雇用形態は増えてくる。
	変わらない	職業安定所（職員）	・求人数があまり増加していないため、あまり景気が良いとはいえない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・全般的に高知では、県外からの進出企業のみが好調で、地場産業は小売を中心に、全く良くなっていない。雇用も含めて、だんだん悪くなっている。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数と有効求職者数は前年同月と比べて4か月連続で増加した。大規模小売店閉鎖に伴い、パート求職者が増加した。離職理由別では、事業主都合による離職者、転職希望などの自己都合退職者共に増加した。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-